

新シルク産業創造研究会

～蚕糸・絹業を成長産業とするために～

平成26年12月17日キックオフ

主催：京丹後市

共催：京都工芸繊維大学・京都府・京都産業21

宮津市・与謝野町・伊根町

本日(キックオフ)の流れ

日時: 12月17日(水) 11時～12時

趣旨: 研究会に参画される事業者が集まり、顔合わせするもの。

内容:

- ①京丹後市から、研究会の進め方について説明
- ②今後の進め方等に関して質疑応答
- ③参加事業者に対し、この研究会で何を実現したいのかについて、アンケート

補講: 14時～17時 蚕糸・絹業関連セミナー(桑園・養蚕)

新シルク産業創造研究会

～蚕糸・絹業を成長産業とするために～



『新シルク産業創造研究会』は、蚕種業、養蚕業、製糸業、絹織物業、絹製品製造加工業など、現在の蚕糸・絹業の振興を図るとともに、絹の素材・機能を活用したヘルスケア産業、医療・医薬産業、産業素材産業など新たな絹産業の創業や事業創出を目指します。

新シルク産業創造研究会～会則～

（名称）

第1条 本研究会は、新シルク産業創造研究会（以下「研究会」という。）と称する。

（目的）

第2条 本研究会は、研究会の会員が事業展開を行う上で必要となる情報の収集・提供や、他の企業又は産業支援機関その他の関係機関との交流・連携の場の創出を通じて、事業の成長・発展に寄与することを目的とする。

（活動内容）

第3条 研究会は、前条の目的を達成するため、次の活動を行う。

- (1)シルクビジネスに関する有益な情報の収集・提供及び支援情報の提供
- (2)シルク産業に関する情報共有のための意見交換会・交流会の開催
- (3)その他研究会の目的を達成するために必要な活動

（会員）

第4条 研究会の会員は、第2条に掲げる目的に賛同する企業、産業支援機関その他の団体又は個人とする。

2 入会を希望するものは、別に定める入会申込書を事務局に提出するものとする。

3 会員は、別に定める退会届を事務局に提出して退会することができる。

4 会費は無料とする。

（事務局）

第5条 研究会の事務局は、京丹後市商工観光部商工振興課に置く。

（その他）

第6条 この会則に定めるもののほか、研究会の運営に関し必要な事項は、京丹後市長が別に定める。

附 則

この会則は、平成26年12月17日から施行する。

～研究課題～

- ①繭の効率的生産（無菌・周年飼育型でのコスト低減等）に関する課題研究
- ②繭を活用した製品技術の確立（コスト、用途開発等）に関する課題研究
- ③新産業創造（起業創業・人材育成等）に関する課題研究

新シルク産業創造研究会

*** 京丹後市の動き ***



6月24日「地域活性化の推進に関する関係閣僚等会合」にて 中山京丹後市長、井上宮津市長から報告と支援要請 — 京丹後市及び宮津市の「地域活性化モデルケース」。全国から6提案のみ。—

正面：

甘利経済財政政策担当大臣兼経済再生担当大臣（左端）

菅内閣官房長官（左2人目）

新藤地域活性化担当大臣兼総務大臣（左3人目）

世耕弘成内閣官房副長官（右端）

太田昭宏国土交通大臣（右2人目）



首相官邸にて事例報告する中山泰京丹後市長（手前中央）と井上正嗣宮津市長（手前右側）



地域資源を活用した新シルク産業創造・産官学連携体制の構築と推進

(連携団体: 京都府、国内繊維系3大学(京都工芸繊維大学・信州大学)、市内民間事業者等) 協力団体: シルクのまちづくり市区町村協議会

連携協力体制



研究拠点を整備し、
新たな養蚕システム
を構築・展開

コア技術



遺伝子組替蚕の研究

スパイダーシルクは羽毛より軽く、鋼より強い。カイコに蜘蛛糸遺伝子を導入することによって作ることが可能。その他にも、紫外線吸収力の高いものなど、シルクが持つ特定の機能を高めたシルクの生産に向けた研究を行う。

無菌・無人・周年・人工飼料による養蚕システムの実践



新事業への展開

持続した展開

新シルク産業分野

- 新衣料分野**
(スパイダーシルク活用による靴下・ストッキング、紫外線防御機能活用生活用品等)
- 新養蚕・桑農業分野**
(新機能絹生産等)
- 健康産業分野**
(セリシン、フィブロイン活用による健康食品等)
- 医療産業分野**
(医薬品・検査薬等原料用組換たんぱく質等)
- 観光産業分野**
(新養蚕産業活用観光等)

既存産業分野

- 既存養蚕業も元気に!
- 養蚕業**
(養蚕業の継承・展開)
- 技術を未来へ継承!
- 織物業**
(和文化の継承・展開)



絹・シルクの和のちから新産業創出区域



新シルク産業の創造関係

【提案名】 絹関連産業・大学等集積・連携促進による

絹・シルクの和のちから新産業創出提案

- ・丹後地域(2市2町)は、わが国最大の生糸消費地・絹織物生地生産地。他方で、わが国の国産絹は、国内流通量の1%に満たない生産量となっている。
- ・わが国最大の生糸消費地・絹織物生地生産地において、川上から川下までの関連産業及び大学等学術研究機関の一貫した集積と連携を促進することにより、新・絹(シルク)産業の創生のためのモデルを構築する。なお、東京五輪を控え、絹の純ジャパンプランドづくりのモデルともなりうる。

現在

川上分野

【養蚕】
生産性に課題があり
国内産は壊滅的



<地域活性化モデル>

①新たな養蚕の技術開発：
高生産性+高付加価値

無菌・無人・周年・人工飼料による
養蚕システムの実践

遺伝子組替蚕の研究



今後

川上分野

【養蚕】
新たな養蚕の技術導入プラス新タイプの農業法人により、「生産性向上」と「川中、川上分野と一貫して俯瞰できる効果的な農業経営」で国内産を再生



新シルク産業創出

新養蚕・桑 農業分野
(新機能絹生産等)



川中分野

【織物】
コスト漸増の外国産生糸頼みで、川下からの需要も長期減少。国産生糸により川下製品の高付加価値化等が課題



川下分野

【特に健康、医療品等】
コスト面から原料として外国産繭、残糸に頼らざるを得ないが、国産繭等が安定的に入手できれば比較的高コストでも付加価値の高い最終製品づくりが可能

<規制改革の実現>

①新・養蚕農業生産法人の設立(絹製品商工業者等が1/2以上の議決権取得が可能)



②養蚕農業の信用保険法の適用

③大学設置基準のキャンパス要件の緩和等々



川中・川下分野

国内産繭、生糸を積極的に活用した、付加価値の高い各種シルク製品の生産



新シルク産業創出

新衣料分野
(ストッキング、紫外線防御機能活用生活用品等)

健康産業分野
(セリシン、フィブロイン活用による健康食品等)

医療産業分野
(医薬品・検査薬等原料用組換たんぱく質等)

観光産業分野(新養蚕産業活用観光等)

新シルク産業の創造関係

「量産型養蚕」と「高機能絹糸開発」による新シルク産業の創出スケジュール



新シルク産業創造研究会

京丹後市の動き

桑の栽培を行う農業生産法人に限り、農外からの出資をより大きく、より幅広い層から受けられるよう、

- ①農業生産法人の構成員要件の緩和
(農外の者は総議決権の2分の1未満) と、
- ②業務執行役員要件の緩和又は撤廃
(役員の過半が、原則年間60日以上農作業に従事すること)

の2点について、規制緩和と撤廃を求める方向。

新シルク産業創造研究会

～次回以降の日程～

開催頻度：月1回程度

内容：①会員の事業実現に向け、具体的な情報を提供

内容：②会員相互の意見交換

内容：③新シルク産業創造の取組方向性や行政支援情報について、京丹後市からの報告

蚕糸・絹業関連セミナー： 3月18日(水)14時～17時
シルクを活用する産業事例を紹介
(工織大・信州大から各1名発表)